

徳川家康に想いを馳せて久能山東照宮・駿府城へ

お値打ちなホテルを選ぶ

今回は繁華街から少し離れたホテルルートイン清水インターに宿を取りました。いろいろ比較したところ、朝食付き駐車場料金が無料でした、これだけで3500円はお値打ちだったことで決めました。繁華街から離れているものの、外に出なくても夕食は丼物、麺類もあるなど庶民的なホテルでした。ビール一杯とツブ貝の刺身に、しらす丼をいただき二人で合計17,000円でした。そんなホテルなので学生がたくさん宿泊していたし、団体客も宿泊していて一般客は夕食時間が19時30分からになっていたのにはびっくり!

でも、朝食はさすがに制限なくどこにでもあるバイキングスタイル。ここではビニール手袋をして料理を取るようになっていましたが、初め気が付かずについて隣の人を見て慌てて入り口に戻り手袋をしました。人件費を省くために、入り口での案内をする人はおらず、テーブルの上に置いてあったのですが気が付きませんでした。

駐車場は外堀沿いの市民文化会館地下駐車場

食事を済ませ9時30分ごろに駿府城に到着できるようにと、9時少し前にホテルを出ました。国道1号のバイパスを走って静岡県庁に到着、前の車に続いて県庁に入りました。ところが、駐車スペースはなくて内堀の周りをぐるりと回っているのに気が付きました。

これはダメだと思っていると、市民文化会館地下駐車場の案内が見えてきました。事前に確認していた駐車場だったので、案内に沿って入場しました。かなり大きな駐車場で十分なスペースがありました。地上に出て、まずは帰りに入り口の場所が分からないのでは困るので、周りをしっかり見まわして市民文化会館前広場の小さなトイレ横に入り口があることを確認しました。

大都市に来ると施設ごとにある駐車場は少なく、近辺にある駐車場はぐるぐる回らないとどこにあるのか分かりません。事前に調べてあちこちにあることは分かりましたが、ナビの設定方は分かりませんでしたので、分かり易い代表的な駐車場に止められて良かったです。

駿府城址の現在

ネットで調べた駿府城の観光案内では分からなかったのですが、いただいた「駿府城独案内」を見ると現在の状況がよく分かりました。芝生広場・児童広場・茶室。紅葉山庭園などが配置されています。今は埋められてしまった本丸を囲むお濠があって、その外側に内堀と外堀



があります。つまり、三重の堀が取り巻く構造になっていました。

① 内堀の中側

内堀はすべて現存しており、遊覧船も運行されています。園内はすべて駿府城公園になっており、南東の角には巽櫓、南西の角に坤櫓が復元されています。中央の本丸御殿跡の北側で天守台跡の発掘調査が行われています。



本丸御殿跡

駿府城の中で最も重要な本丸御殿は、家康が諸国の大名に会うような公式の場所と、日常の生活をしている私的な場所を併せ持った建物で、本丸の中央部に位置しています。その辺りに家康公の銅像が建ち、家康公手植えのミカンがあります。このミカンが鎌倉時代に中国から渡来したコミカンの一種で、紀州より贈られ自ら天守台付近に移植したと伝えられています。静岡地方のミカンの起源を知るうえで貴重なもので、県指定天然記念物となっています。

② 外堀と内堀の間

このエリアには県庁、歴史博物館、静岡税務署、地方裁判所、中央福祉センター、静岡体育館、市民文化会館、社会福祉会館などのほかに、高校、中学校、小学校、幼稚園さらにはカトリック教会や静岡病院などが配置されています。他のお城でも役所があるとか、学校などがあるのが一般的ですがこれだけ多くの施設が配置できる、とても大きなお城だったこととなります。そして、外堀の一部は埋め立てられています。

天守台跡の発掘調査現場



天守台発掘現場と説明板

園内に入るとやはりその広さを実感します。特別に施設があるでもない広いエリアは駿府城の規模を実感します。どんどん進んでいくと柵や塀で囲まれた発掘現場があり、前に立つとかなり広いと感じます。そこには駿府城の概要、調査の目的などを記した立て看板が置かれています。

それによると、平成28年8月～令和2年3月が現地調査、令和4年3月までが整理・報告書の刊行とありました。この期間はすでに経過しており現場は発掘された石垣がよく見えており、他はシートがかけ

られています。

このように発掘現場に立つと、やはり模型であれ何であれ目に見える形の天守台があつてほしいと感じます。地元東浦では現存しなかった「緒川城」の模型を作りましたが、みなさんにいろいろ空想してもらつても意味でも形あるものが必要と感じました。

駿府城の歴史

徳川家康公は慶長12年(1607)大御所として駿府に入り、それまでの駿府城を一回り大きくした城を全国の大名に命じて(天下普請)築城しました。お城の構造は三重の堀が回り、堀に囲まれた曲輪を内側から「本丸」「二の丸」「三の丸」とする縄張り。現在三の丸は主に公共施設が立ち並び、本丸と二の丸は駿府城公園となっています。そんな駿府城の歴史は次のようなものです。

天正13年(1585) 徳川家康、駿府城の築城開始

天正17年(1589) 天守をはじめ二の丸まで完成

慶長12年(1607) 本丸・二の丸の修築を始める

慶長13年(1608) 天守完成

慶長12年(1635) 城下より出火、城内に延焼し天守・御殿・櫓・堀など大半を焼失

寛永15年(1638) 御殿・櫓・小門など再建されるが、天守は再建されず

安政元年(1854) 安政地震により城内外の建物、石垣などほぼ全壊

安政4年(1857) 修復工事に着手し、安政5年完了する

明治24年(1891) 静岡市、三の丸を除く大部分の払い下げを受ける

昭和24年(1949) 静岡市、駿府城址の払い下げを受ける

平成元年(1989) 復元巽櫓完成

平成8年(1996) 復元二の丸東御門完成

平成24年(2012) 駿府公園から駿府城公園に名称変更

平成26年(2014) 復元坤櫓完成

家康公は1586年の45歳から1616年の75歳で亡くなるまでを駿府城で過ごしました。

戦国時代の遺構を屋内展示する静岡市歴史博物館

駿府城址を出て隣にある静岡市歴史博物館へ11時ころに移動しました。入口にガードマン?の方がいて大河ドラマ館へ行くシャトルバスが11時2分に出ますと言う。時計を見るとその時間である、どこから出ますかと聞いている時に動き出すバスが前方に見えた。次のバスの時間を確認して歴史博物館を先に見学した。この博物館は令和5年1月にグランドオープンしたもので、その初めは静岡浅間神社境内に開館していた「静岡市文化財資料館」で、新博物館の基本構想後に「道と石垣の遺構」発見による計画変更を経てグランドオープンしたという。

館の建設に伴い33mにわたって発見された駿府城下の遺構(道と石垣)を、そのまま館内に取り込んで公開しています。家康が駿府城主だった、戦国時代末期に造られた本物の「戦国時代の道」です。当時この場所は城の大手のすぐ外側に当たる場所。もしかしたら、家康が歩いたかも?そんなことを想像しながら





から見学するのも楽しいことです。

戦国時代の道の遺構は全国的にも大変珍しい発見です。ここ静岡でも建物や道路が何度も移り変わり、こうした遺構はほとんど残っておりません。この場所も城代屋敷や図書館、小学校などに利用されてきましたが、幸運にも壊されることなく残っていたのです。このあと11時40分のシャトルバスで大河ドラマ館へ移動しました。

大河ドラマ館で家康・義元とスリーショット

大河ドラマ館のバス停は神社鳥居のすぐ前の商店街にありました。境内に入るとすぐに大河ドラマ館の看板が見えました。ここの開館は令和5年1月27日～令和6年1月28日の1年間となっています。館内の展示は①「どうする家康」の入門編として、あらすじ、脚本家はじめスタッフ紹介。②衣装・小道具展示と登場人物の紹介③ドラマ制作の舞台裏④どうする家康が描いた駿府ゆかりの人物紹介⑤静岡紹介エリア⑥写真撮影コーナー⑦4Kシアターで構成されています。



しかし、私の本音はあまり関心がなくてどうでも良かったのですが、その中で純白の二人の婚礼衣装だけは何か記憶に残りました。それと、出口付近にあった等身大パネルとともに記念撮影できるコーナーです。私は家康と義元の3人で、妻は家康と瀬名の3人で写真を撮ってもらいました。それを見ると3人の中で私が一番小さいのがっかりしましたが、考えてみたら家康より背が低いのではなく松本潤さんより低

いだけと納得しました。

他には出演者のサイン色紙やミニ企画コーナーなどもありました。が、これらはパスして浅間神社へ向かいました。

浅間(せんげん)神社はなくて、浅間(あさま)神社はある

大河ドラマ館を出ると茶店がありコーヒーの看板も見えたので立ち寄りしました。店に入るもお土産さんで喫茶コーナーはありませんので、うろうろしていたら先客がコーヒーを受け取り店を出ていきました。コンビニスタイルだったのです。私たちもコーヒーを受け取り外のベンチで飲んでいましたら、観光ガイドさんが数人のお客さんを案内していました。そばにガイド無料の看板もありましたので頼もうかと思ったのですが、シャトルバスの時間もあり自由に見学してお参りをすることにしました。

近くに大きな案内板があり眺めてみると、かなり広い境内だと分かります。とりあえず本殿へ移動すると、大きくて立派な楼門があります。朱色の門は屋根が黒で瓦の先端は金色が施されて、豪華さを際立てています。その門をくぐるとこれもあちこちに金色をあしらひ、屋根の反りが特徴的な拝殿があってその奥が本殿です。が、お参りして気が付きましたが右と左に別の神様をお祀りしているのです。右が神

部神社で左は浅間(あさま)神社でした。



楼門



二つの神社の拝殿

ご祭神は神部神社がオオナムチノミコトで延命長寿・縁結びの神様、浅間(あさま)神社はコノハナサクヤヒメノミコトで安産・子授けの神として信仰されています。

お参りをして帰ろうとしたら、ここでも観光カイドさんが説明していました。そこで飛び入りで質問しました「二つの神様の名前がありますが?」とお聞きしましたら、その通りで右が神部神社、左が浅間(あさま)神社と教えてくれるとともに、パンフレットをいただきました。それを見てよく分かりました。

神部神社・浅間神社・大歳御祖(おおとしみおや)神社を総称して、静岡浅間(せんげん)神社、通称「おせんげんさま」と申し上げるとありました。ここで初めて登場した大歳御祖神社の祭神は大歳御祖命(おおとしのみおやのみこと)で静岡の守護神であり、農・魚・工・商業など諸産業の繁栄守護の神として信仰されています。

社殿の26棟は国の重要文化財に指定され、そのため「東海の日光」とも言われます。また、海外雄飛で知られる山田長政公の産土神としても知られています、とありました。

ここで12時20分頃でしたのでバス停近くに食事処はないか探しても、商店街が続くものも見当たりません。街中のお店は駐車場がなさそうなので、このまま次の臨濟寺へ行くことにしてシャトルバスに乗りました。するとバスはお城をぐるりと回るコースで、運の良いことに市民会館駐車場前で停車してくれました、ラッキー!!

すんなりついた臨濟寺

お寺さんには迷うことなくすんなり到着しました。ところが駐車スペースが見当たりません、降りて周りを探してみると、お墓参りの方用と思われる空地がありましたので止めさせてもらいました。事前に調べたら修行寺のため普段は見学できませんとありました。見学はできなくともお参りは出来るはずと門前へ進みましたが、人気はなく静寂そのものでした。

塀の前に池があって山門横には形の良い松の木があり、その山門には「臨濟宗妙心寺派」と「臨濟宗専門道場」の看板が掲げられています。通常は見学できませんと記されていたことや、専門道場の看板を見ることはほとんどないので、門をくぐるのは気が引けました。地元の乾坤院も中本山という位置づけで、



若い僧侶の研修所のような存在でした。この臨済寺は今川家の菩提寺で氏輝、雪斎のお墓があります。最初は氏親が建立したお寺が後に臨済寺となったもので、今川家のお寺はいくつかありましたが、今はここ臨済寺にまとめられているそうです。そして、このお寺は家康が今川の人質時代に、政治・軍事・外交に秀でた手腕を発揮して義元を補佐したことで知られる、太源雪斎から教えを受けて学んだところとして知られています。その意味で徳川300年の礎を築く素地を作ったのは、家康が竹千代時代にここで12年間学んだことによるものとも言えます。



現在の大河ドラマブームもあり人が多いかと想像しましたが、以外にも人っ子一人見当たりませんでした。でも、雪斎や氏輝のお墓まで行くことはためらわれ、ここで引き上げました。ちなみに本堂は国の重要文化財に指定されています。

今回の見学はここまでで、予定した個所の見学をすることが出来ました。他には徳川慶喜公の屋敷なども立ち寄りたかったのですが、街中にあり駐車場がどこにあるか調べられなかったことで取りやめました。この後静岡インターにナビをセットして岐路につきましたが、途中で2度も指示通りに曲がる事が出来ずヤレヤレでした。